

BLの流行による社会変化はあったのか

——2000年代以降を中心として——

石川桃子

本研究では、近年BL（ボーイズ・ラブ）と呼ばれる男性同士の恋愛を描くジャンルの流行に注目し、このような同性愛が描かれたものに対して寛容である日本において、同性婚をはじめとする性的マイノリティに関する法整備が進まない要因を検討した。研究にあたり、BL作品や性的マイノリティに対する関心を調査する目的でアンケートを行った。

アンケートの結果をBL愛好者と非愛好者で比較したところ、性的マイノリティの問題への関心はBL愛好者のほうが高く、差が見られた。この結果からBL作品が愛好者に問題へ意識を向けるきっかけとして働いていることが推察できた。また、同アンケートから、愛好者・非愛好者にかかわらず、性的マイノリティに関心があろうと、現状を変えるための活動をする人は少ないことが明らかになった。さらに、「現状維持」の考えのもと、若い世代が同性婚に対して保守的な姿勢をとっている自民党に多数投票しており、政治への関心や現状を変える意識が低いことがわかった。

これらのことから、日本において性的マイノリティの法整備が進まない要因として、当事者意識の低さ、現状維持の精神、政治への関心の低さがあげられた。マイノリティ、マジョリティ関係なくひとりひとりが当事者意識を持つことが法整備を推し進めていくために必要であり、BLがそのきっかけのひとつとして今後も作用することが期待された。